

登録コード	MA003400	開講年度	2026				
授業科目名	臨床腫瘍学					担当教員	古庄 知己
英文授業名	Clinical Oncology					副担当	牧島 秀樹・神田 慎太郎
単位数	1	講義期間	後期（随時）	曜日・時限	火曜・4時限 火曜・5時限 火曜・6時限 金曜・6時限	対象専攻／学年	
講義室	医学科第2実習室 旭総合講義室A B		授業形態	講義	授業科目区分		
信大コンピテンシー	該当						
(1)授業の達成目標	【ディプロマ・ポリシー】授業で得られる「学位授与の方針」要素 ⇔ MS26カリ(医科学)・医科, MS25カリ(医科学)・医科, MS24カリ(医科学)・医科, MS23カリ(医科学)・医科 【研究科共通】医学系諸科学における学識と情報収集能力・分析能力、研究技術を備えており、共同もしくは単独で、それぞれの分野における諸課題を解決できる。 ⇔ 腫瘍学の基本的知識を習得し、関連情報の収集・分析能力を身につけ、遺伝性腫瘍症候群やがんゲノム医療における諸課題を解決できる。 MS26カリ(医科学)・医科, MS25カリ(医科学)・医科 【医科学】基礎医学および臨床医学に対する基本的知識、技能および技術を修得し、自主的に検討することができる。 ⇔ 腫瘍学に関する基本的知識を習得し、それをもとに遺伝性腫瘍症候群やがんゲノム医療における諸課題を自主的に検討することができる。 【医科学】幅広い知識を基盤とし、最新情報を収集・分析することにより、社会のニーズに適応した行動をとることができる。 ⇔ 腫瘍学に関する最新かつ包括的な情報を収集・分析し、遺伝性腫瘍症候群やがんゲノム医療における諸課題に対して適切な行動をとることができる。						
(2)授業の概要	・医学科3年次講義「腫瘍」への参加						
(3)達成目標（一般学習目標GIO）	・がんの疫学、分子生物学、臨床を包括的に学ぶ。						
(4)達成目標（個別行動目標SBOs）	・がんに関する重要事項（生物学的特徴、日本におけるがんの疫学と対策、がん発生・転移の分子基盤、診断法を概説できる、治療法（外科的治療、化学療法、放射線治療等）、緩和ケア、免疫療法、臨床試験等）を概説できる。						
(5)授業計画	・医学科3年生講義「腫瘍」への参加（講義：1時間x15回）						
(6)授業の進め方	・講義形式						
(7)履修上の注意・事前事後学習の内容	・担当教員より指示						
(8)成績評価の方法	レポート：「可」以上						
(9)成績評価の基準	(i) 問題の設定が適切であり、(ii) その問題の背景を説明できており、(iii) その問題にどのような課題があるのかを指摘できており、(iv) それらの課題に対して既存の学説が提示する解決法が適切に把握できており、(v) その上で自分の見解を提示できており、かつ、教員を感心させるレベルにあれば「卓越している（秀）」。(i) から (v) の5項目を満たしていれば「かなり上にある（優）」。4項目までできていれば「やや上にある（良）」。3項目までできていれば「水準にある(可)」。						
(10)学生へのメッセージ並びに質問、相談への対応	牧島 秀樹 血液・腫瘍内科学教室 神田 慎太郎 信州がんセンター 古庄 知己 他 遺伝医学教室（内線5207）						
【テキスト，教材，参考書】	【参考書】 新臨床腫瘍学（改訂第6版）：がん薬物療法専門医のために （南江堂）						